

		作成日	令和8年8月25日
リーディングプロジェクト	こどもを中心としたまちづくり	ゼネラルマネージャー	こども未来部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	こども未来部長、福祉部長、建設部長、教育総務部長、学校教育部長		
幹事会メンバー	こども未来部次長、保育幼稚園担当参事、教育施設担当参事、学校教育担当参事、教育センター担当参事、こども政策課長、こども支援課長、こども福祉課長、こども家庭センター長、青少年課長、生活福祉課長、公園担当参事、河川課長、教育総務課長、社会教育課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

少子高齢化に伴う家族形態の変化や共働き家庭の増加などの社会状況の変化により、孤独や不安を抱えながら生活する家庭や経済的な困難さを感じて生活する家庭が存在しています。次代を担うこどもたちが、たくましく健やかに育っていくためには、子育ての一義的な責任を有する保護者が安心して子育てができるよう、地域全体でこどもの育ちを支えていく必要があります。このような状況を踏まえ、こどもの成長に応じた切れ目のない支援を提供することで、若い世代が暮らしやすく、安心して結婚、妊娠、出産、子育てを行うことができる環境の整備を進めます。所沢の豊かな自然を活かした子育て環境の中で、家庭、地域、学校、市がともに関わりあい、それぞれの役割を担いながら、全てのこどもたちの幸せを第一に、まちぐるみでこどもたちの成長を見守る取り組みを進めます。

【令和7年度に実施した事業】

《「主な取り組み」にあたる事業》

2-1-1 こどもの育成支援の充実									
こども支援センター運営事業（子育て支援）								こども未来部こども支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続
ところっこ親子ふれあい絵本事業								こども未来部こども支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
2-1-2 子育て家庭への支援の充実									
こども若者子育て情報配信事業								こども未来部こども政策課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
一般型一時預かり事業								こども未来部こども支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
2-1-3 地域における子育て支援の充実									
地域子育て支援拠点事業								こども未来部こども支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続
ファミリーサポート事業								こども未来部こども支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
2-4-1 家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成									
青少年健全育成広報・啓発活動事業								こども未来部青少年課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続

2-5-1 確かな学力と自立する力の育成												
ところん学力向上プロジェクト事業								学校教育部学校教育課				
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
「ところんのびのび塾」算数基礎学力向上プロジェクト事業								学校教育部学校教育課				
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅲ：要改善			
2-5-2 豊かな心の育成												
健やか輝き支援事業								学校教育部学校教育課				
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
いじめ未然防止対策事業								学校教育部学校教育課				
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅰ：事業規模拡大			

《「関連する取り組み」にあたる事業》

1-5-3 家庭・地域の教育力の向上												
社会教育関係団体補助事業								教育総務部社会教育課				
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
家庭教育推進事業								教育総務部社会教育課				
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続			
3-1-2 母子保健事業の充実												
妊娠・出産つづけてサポート事業								こども未来部こども家庭センター				
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅲ：要改善			
4-2-3 みどりと水の保全												
里山保全地域等指定整備事業								環境クリーン部みどり自然課				
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
みどりの創出事業								環境クリーン部みどり自然課				
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
北秋津・上安松地区都市緑地保全事業								建設部公園課				
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
ふるさとの川再生事業								建設部河川課				
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			

《寄与する事業》

1-2-3 安心・安全に地域で生活できる環境づくり												
生活困窮者自立促進支援事業								福祉部生活福祉課				
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			
2-3-2 就学前児童の保育の充実												
障害児保育事業								こども未来部保育幼稚園課				
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅰ：事業規模拡大			
2-3-3 放課後児童クラブの充実												
サマープレイスところざわ実施事業（放課後居場所緊急対策事業）								こども未来部青少年課				
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅰ：事業規模拡大			
2-4-2 青少年健全育成の支援												
児童館運営事業								こども未来部青少年課				
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続			

2-5-5 学校環境整備の推進										
学校トイレ改修事業								教育総務部教育施設課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
3-5-3 スポーツ活動の支援と環境整備										
所沢市運動部活動推進事業								教育総務部スポーツ振興課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	貢献度	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	

【評価及び今後の方針】

●こども支援センター子育て支援エリアにおいて、親子が交流できる広場の提供、子育て情報の発信を実施した。

なお、子育て支援と発達支援の機能が同階に併設していることを活かし、各事業が連携しながら多様な子育て相談、必要に応じた適切な早期療育へ繋ぐ支援を実施した。今後も、こどもたちが健やかに成長し、安心で充実した子育てができるよう、講座や相談などを通じて子育て支援の充実を図っていく。

●1歳6か月児健診の場での読み聞かせにより、親子のふれあいの大切さを伝えることができた。また、絵本の交換で図書館や地域の子育て支援施設を訪れてもらうことによって、孤立しがちな親子の施設等の利用に繋げることができた。引き続き、絵本の交換が促進されるよう努め、親子のふれあいの大切さを伝えていく。

●LINEアカウント「こども・若者情報チャンネル」を申請手続きなどに活用することによって登録者数が増加し、より多くの方に市からの情報を直接届けることができるようになった。引き続き、受け取る側にとって有益な情報となるよう、子育て世帯やこども・若者に対し配信していく。

●一般型一時預かり事業においては、保育園等の入園が保留となった児童をはじめ、就労や出産、入院など幅広い保育ニーズの受け皿としての機能を果たすことができた。今後も、保護者の就労形態・生活様式の多様化等により高まるニーズに対応できるように、現状の施設数を維持することで受入枠の確保を図っていく。

●地域子育て支援センターを通じて、妊産婦を含めた子育て中の親子が気軽に集い、子育ての不安・悩みを相談できる場を提供し、関係機関と連携しながら、親子同士の出会いや子育てにかかる不安感等の解消に努めた。引き続き、地域の子育て支援拠点の場を確保し、こどもの健やかな育ちを支援していくことで、地域の子育て支援機能の充実を図る。

●ファミリーサポート事業は県内他市と比較しても本市の利用件数は多く、子育て家庭が仕事と育児を両立するための支援に繋がっている。預かりや送迎など、様々な保育ニーズに対応するため、援助会員の確保に向け、養成講習会の周知方法を工夫していく。また、より多くの子育て家庭に本事業を利用してもらうために、事業周知に努めていく。

●青少年健全育成の実現には、継続的な啓発活動が効果的であるため、全国的に展開する強調月間に合わせて活動を行うことが非常に重要であり、今後も本市の青少年健全育成に関わる各団体の協力を得ながら取り組んでいく。

●ところん学力向上プロジェクト事業について、研究委託を受けた全ての学校で研究を進めることができた。教職員・児童生徒を対象とした調査を通して明らかになった課題を校長会等で共有し、児童生徒の学力向上を推進する。また、「授業改善チェックシート」や「振り返りシート」の周知、学校指導訪問での活用等を図っていく。

●多くの児童や学習ボランティアに「ところんのびのび塾」に参加をしてもらい、地域の教育力の活用やこどもたちの学力向上及び学習意欲の向上に繋がった。参加児童、保護者、ボランティアの方々から好評価であり、学習ボランティアとして参加した中学生のキャリア教育、体験活動にもつながった。複数会場での開催に向けての形式等を見直し、学習支援のための手立て、学習ボランティアの確保などに努めていく。

●全てのいじめ事案が解消するまで対応し、見届けを行うことで、いじめの解消率の向上に努めていくとともに、教育委員会として学校と連携しながら対応していく。また、いじめの重大事態が発生した際、より機動的・組織的に対応することができるよう、学校への指導助言を行っていく。

●いじめ未然防止に資する必要な知識、スキルの獲得を目的とした実践事例を作成するなど、「所沢市いじめ未然防止プログラム」の構築に向けて研究を進めることができた。いじめ未然防止に資する資質能力を育成するための授業プランや児童生徒が主体となったいじめ未然防止活動の研究を引き続き進めていく。

●所沢市PTA連合会をはじめとする社会教育関係団体の活動を通じて、こどもたちの健全育成に寄与している。今後も各団体の実情に配慮しながら活動を支援していく。

●保護者が家庭教育についての講座を企画・運営するなかで、子育てに関する気づきや学校や保護者同士の繋がりが生まれており、意義のある事業になっている。働いている保護者でも取り組みやすいよう、引き続き制度の改善や運用の見直しを行い、事業の充実に努めていきたい。

●生活に困窮している家庭に対して、所沢市社会福祉協議会と連携し、家庭の状況に応じて適正な制度利用を案内するよう努めるなど、包括的な相談支援を行った。今後も継続して相談支援を行っていく。

●児童クラブの大規模化、狭隘化、待機児童の解消等のため、小学校施設の活用や民設民営児童クラブの設置等により、定員を拡大したことで待機児童が昨年度から減少したが、依然待機児童数が多い状況が続いているため、更なる対策を進める必要がある。毎年施設整備により定員を拡大しているが、共働き世帯の増加等による需要増に対応するため、継続して施設整備等を行う。

●令和7年度から開始したサマープレイスところざわでは、児童クラブの保留児童に対して、需要の高い夏季休業期間中に安全・安心な居場所を提供した。今後も夏季休業期間中の預かりニーズを適切に把握し、事業を拡充していく。

●障害のある乳幼児と障害のない乳幼児を混合して保育する民間保育園等に対し、補助金を交付することにより、障害児の健全な育成に寄与し、もって福祉の増進を図るものである。令和8年度より、補助単価の一部引上げを実施し、更なる充実に図っていく。

●所沢市こども計画に基づき、小規模保育事業所1園の新設開設、および既存施設の定員増により、保育の受入枠を増やすことで、安定した保育の提供を行った。引き続き待機児童等の状況を踏まえ、必要な保育定員を確保していく。

●保健師や助産師が電話、面接、訪問により、妊産婦や保護者からの様々な相談に対応した。妊婦サロンや助産師による母乳相談、産後ケア事業を行うなど、妊産婦に寄り添う支援を実施した。今後も妊娠出産から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実に図る。

●都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、地域制緑地の指定範囲を0.33ha拡大し、市内に残された貴重なみどりを保全することができた。今後も未来のこどもたちに所沢の貴重なみどりを継承するため、各種法令等に基づき、保全する樹林地の土地利用を制限する地域制緑地の指定及び拡大を行っていく。

●街中に生物生息空間を適切に配置し、生態的なつながりを持たせるため、市民フェスティバルにおいて花苗や苗木を配布し、エコロジカルネットワークの形成を図った。今後も、市街化区域周辺においてみどりを創出することの重要性を市民に周知し意識の向上を図るとともに、花苗や苗木を配布しエコロジカルネットワークの形成を図っていく。

●北秋津・上安松地区都市緑地の事業用地2,285.27㎡を取得した。引き続き、地権者の理解を得ながら、計画的に都市緑地を取得し、適正な維持管理に努める。

●ふるさとの川再生事業において、こどもたちを含めた市民との協働による、河川や湿地の清掃活動、田植えや稲刈りなどの稲作体験を実施し、豊かな自然を活かした子育て環境の場を創出することができた。今後もこの活動を推進していく。

【総評】

各事業についてはおおむね計画どおりに進捗しており、子育て家庭を支える取り組みや、学校や地域をはじめ、こどもたちの健やかな育ちを支える環境づくりは着実に進んでいる。しかし、放課後児童クラブの待機児童数については多い状況が続いており、更なる対策を推進する必要がある。

こどもに関する支援の重要度は高まっており、「こどもを中心としたまちづくり」の実現に向けては、地域や関係機関と密接な連携を図りながら、引き続きハード・ソフト両面での環境整備を進め、こどもの成長に応じた切れ目ない支援の充実を図っていく。

【SDGsへの貢献】

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナリーシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤を作ろう | |

		作成日	令和 8 年 8 月 2 8 日
リーディングプロジェクト	地域のつながりを活かしたまちづくり	ゼネラルマネージャー	市民部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	市民部長、福祉部長、こども未来部長、健康推進部長		
幹事会メンバー	市民部次長、地域づくり推進課長、地域づくり推進課主幹、山口まちづくりセンター長、柳瀬まちづくりセンター長、企画総務課長、高齢者支援課長、地域福祉センター長、こども支援課長、青少年課長、健康づくり支援課長、危機管理室長、防犯対策室長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

「地域でできることは地域で解決する」という自立性を支援するため、各地区にある「まちづくりセンター」が地域の拠点施設となり、地域の関係団体同士がつながる「地域づくり協議会」などの運営を支援してきました。

また、高齢者や障害者、子育て世帯等が住み慣れた地域で人との絆により支え合い、生きがいを持ち、誰もがその人らしい生活が送れる地域づくりを推進しています。

今後も、地域のことを「他人事」ではなく「我が事」と考える住民主体の地域づくりを支援し、身近な地域に広がるネットワークづくり、住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるための取組の推進、地域の課題を解決するための体制づくりを推進する必要があります。

引き続き、地域ネットワークである「地域づくり協議会」への支援をはじめ、まちづくりセンターを中心とした全庁的な支援体制を整え、地域コミュニティの充実を図るとともに、多様な主体が連携を図り、地域の人と人との支え合う活動を促進します。

【令和 7 年度に実施した事業】

≪「主な取り組み」にあたる事業≫

1-1-1 地域コミュニティの充実									
地域づくり支援事業（松井）								市民部松井まちづくりセンター	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（富岡）								市民部富岡まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（小手指）								市民部小手指まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（山口）								市民部山口まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（吾妻）								市民部吾妻まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（柳瀬）								市民部柳瀬まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（三ヶ島）								市民部三ヶ島まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（新所沢）								市民部新所沢まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
地域づくり支援事業（新所沢東）								市民部新所沢東まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続

地域づくり支援事業（所沢）										市民部所沢まちづくりセンター	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続		
地域づくり支援事業（並木）										市民部並木まちづくりセンター	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		
所沢市民フェスティバル開催支援事業										市民部地域づくり推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		
1-2-2 身近な地域に広がるネットワークづくり											
所沢市社会福祉協議会補助金交付事業										福祉部地域福祉センター	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		
民生委員・児童委員及び協議会活動推進事業										福祉部地域福祉センター	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		
1-4-2 住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるための											
認知症施策推進事業										福祉部高齢者支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅰ：事業規模拡大		
地域包括支援センター運営事業										福祉部高齢者支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続		
1-4-3 地域の課題を解決するための体制づくり											
生活支援体制整備事業										福祉部高齢者支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続		

《「関連する取り組み」にあたる事業》

2-1-3 地域における子育て支援の充実											
地域子育て支援拠点事業									こども未来部こども支援課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続		
ファミリーサポート事業									こども未来部こども支援課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		
子ども広場設置・整備費補助金									こども未来部青少年課		
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		
3-1-1 主体的な健康づくりの推進											
地域保健推進事業									健康推進部健康づくり支援課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続		

《寄与する事業》

1-6-1 地域防災体制の強化										
総合防災訓練事業									危機管理室	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
5-5-2 外国人市民が暮らしやすい環境づくり										
行政資料の多言語化推進事業									経営企画部企画総務課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	

【評価及び今後の方針】

主な取り組み

● 1-1-1 地域コミュニティの充実

- 令和7年度においても、「地域づくり協議会」等とともに地域活動を周知しながらウォークラリーや地域マップ作りなど地域コミュニティの充実につながる様々な取組を実施した。また、防災や防犯、環境など、地域における課題の解決に向けた取組も行われている。さらに、こどもを対象とするニュースポーツや自然体験などの企画も開催され、若い世代の方にも参加してもらえるよう創意工夫を凝らした事業が展開された。
- まちづくりセンターでは、デジタル格差解消の一環として、学生ボランティアと協働してスマートフォンを活用した講座が広く開催された。また、地域のイベント情報等をより若い世代や子育て世代に届けることにより、地域への関心と愛着を深めてもらうことを目的に、まちづくりセンターインスタグラムを活用して広く周知を行った。今後も引き続きまちづくりセンターを中心に、地域の方々が安心して活動できるよう団体の運営や活動の相談に応じるなど、地域課題解決のための自発的な活動を支援することにより、地域コミュニティの充実を図っていく。
- 第46回所沢市民フェスティバルでは2日間とも雨天であったにもかかわらず約15万人の来場者、449団体の出展があった。多くの市民が出展者やボランティアとして参加しているほか、市内企業や市民団体、行政団体がともに一つのイベントを作り上げており、地域コミュニティの充実に今後も大きく寄与していくものと期待される。

● 1-2-2 身近な地域に広がるネットワークづくり

- 地域福祉の中核を担う所沢市社会福祉協議会の運営を引き続き支援したことで、市内11地区に配置したコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が地域に出向き、市民の困りごとの発見・把握や、関係機関・地域の居場所との連携・つなぐ支援を展開、また、個別の困りごとを地域内で解決できる仕組み作りなどに取り組むことができた。
- 民生委員等の活動支援につながるよう『広報ところざわ』にて民生委員の特集号を配信し、認知度向上に努めた。

● 1-4-2 住み慣れた自宅や地域で暮らし続けるための取組の推進

- 介護予防・生活支援サービス事業では、高齢者の心身機能の維持・向上のため、安定的にサービスを提供できる体制の維持に努めた。
- 地域包括支援センター運営事業では、地域ケア運営会議等により、事業の充実に向けた事例研究や検討を行い事業効果の向上に努めた。地域包括支援センターにおいては、介護予防教室等を実施し、参加者のニーズや地域の健康課題に即した多様な内容を取り上げ、介護予防の普及啓発を行った。また、事業等の実施が効果的・安定的になされたか評価を行い、必要な改善を進め、体制の充実化に向けた検討を行った。
- 認知症施策推進事業では、認知症について正しく理解し、地域で支え合えるよう、認知症サポーター養成講座を52回開催し、市内の学生を含む、2,201人が受講した。認知症地域支援推進員を中心に開催した「オレンジウィーク」では、認知症本人の作品や認知症関連施設の紹介、本人や家族のメッセージ、オレンジガーデニングプロジェクトの写真等を展示したほか、本人交流会や家族会、「地域でみまもり支え合い事業（ところんおかえりQR）」の体験会等のイベントを開催し、啓発やネットワークの構築を図った。
- 在宅医療・介護連携推進事業では、定期的な医療介護連携会議の開催、在宅療養に係るパンフレットや、市民向け講演会等を通じて、連携基盤整備の推進に努めた。

● 1-4-3 地域の課題を解決するための体制づくり

- 生活支援体制整備事業では、第1層（市全域）及び第2層（日常生活圏域）生活支援コーディネーターを中心に、把握した地域支援情報を活用し、日常生活圏域（14圏域）ごとの地域の課題や資源の情報共有を図り、買い物支援など具体的な施策につながり、活動の継続が図られている。
- 高齢者の情報格差への対応や地域のつながりづくりのためにスマホサポーターを養成し、スマホ教室等の開催を推進したほか、地域の課題解決に寄与する団体等の立ち上げ支援や、担い手の養成、地域関係者のネットワークの構築など、仲間づくり、地域づくりの活動を支援した。

関連する取り組み

● 2-1-3 地域における子育て支援の充実

- ・ 地域子育て支援拠点事業については、昨年度に引き続き14中学校区（全27施設：県内上位の設置数）にて事業を実施した。地域子育て支援センターを通じて、妊産婦を含めた子育て中の親子が気軽に集い、子育ての不安・悩みを相談できる場を提供し、関係機関と連携しながら、親子同士の出会いや子育てにかかる不安感等の解消に努めた。引き続き、地域の子育て支援拠点の場を確保し、こどもの健やかな成長を支援していくことで、地域の子育て支援機能の充実を図る。
- ・ ファミリーサポート事業については、県内他市と比較しても本市の利用件数は13,693件と多く、子育て家庭が仕事と育児を両立するための支援につながっている。預かりや送迎など、様々な保育ニーズに対応するため、援助会員の確保に向け、養成講習会の周知方法を工夫していく。また、より多くの子育て家庭に本事業を利用してもらうために、事業周知に努めていく。
- ・ 令和7年度の子ども広場に対する補助金の申請件数は3件であった。補助金は、すべり台の撤去・設置、木の伐採、ベンチ・遊具の塗装に利用され、こどもたちが安全に憩い、楽しめる広場を整備することができた。また、自治会等が子ども広場の維持・管理を行うことで、地域のことを「我が事」と考える地域づくりの支援につながった。補助を継続することで、こどもが地域で安全に遊べる場所を提供していく。

● 3-1-1 主体的な健康づくりの推進

- ・ 地域保健推進事業については、各地区の担当が地域の現状や課題を把握し、地域特性に合わせて保健活動を進めた。具体的には、生活習慣等の周知や健康教室、講演会、リハビリ事業、健康相談のほか、まちづくりセンター等、各地域でも健康教室を開催し、地域の実情に合った保健活動を展開した。市民との協働による取組としては、健康情報を家族、友人など周囲に広める「みんなで健康マイスター」の養成や、食を中心として健康づくりを進める「食生活改善推進員」の活動支援を行った。今後も、地域の現状や課題を把握し関係機関との連携を図りながら、市民に向けた積極的な取組を継続し、市民自らが健康保持・増進に積極的に取り組めるよう支援を行う。

寄与する事業

● 1-6-1 地域防災体制の強化

- ・ 総合防災訓練では災害の被害を最小限に抑えることや市民の防災意識の高揚を図ることを目的に、より実践的な内容となるよう見直しを図りながら災害対策本部設置訓練や各地区自主防災活動訓練等を実施している。各地区自主防災活動訓練では、訓練内容を発災直後の避難から避難所開設までの一連の手順を学ぶ訓練へ見直すとともに、地域防災の要となる各地区自主防災組織へ交付金を交付するなどし、地域での自主的な訓練の実施を促しており、今後も継続的な支援を図っていく。

● 5-5-2 外国人市民が暮らしやすい環境づくり

- ・ 外国人市民が暮らしやすい環境づくりの一環として、行政資料の多言語化について引き続き各所属に対して働きかけていくとともに市ホームページ等での情報発信の充実を図る。

【総評】

地域づくり協議会等との協働による各種事業やイベントのほか、市民フェスティバル等の地域コミュニティの充実を図る取組等により、こどもから高齢者まで世代を超えた交流を促進しながら、地域のつながりを活かしたまちづくりを推進してきた。

福祉の分野では、地域福祉の担い手である社会福祉協議会や民生委員・児童委員協議会とも情報共有を図りながら地域ネットワークの強化に努めるとともに、住み慣れた自宅で暮らし続けるための取組として、認知症施策や生活支援体制整備事業、在宅医療・介護連携推進事業等も継続している。

また、ファミリーサポート事業やこどもが安全に遊べる場所の提供など、地域における子育て支援の充実を図ってきたほか、地域特性に合わせた保健活動等、関連した取組についても着実に推進してきている。

さらには、各地区で行われている自主防災活動訓練では、より実践的な訓練となるように見直しを図り、地域防災力の強化を図ってきたほか、外国人市民が暮らしやすい環境づくりとして、行政資料の多言語化も進めてきた。

引き続き、様々な事業や取組を通じて、地域コミュニティの充実や地域ネットワークの強化に努めるとともに、こどもから高齢者、障害者、外国人など誰もが、地域のことを「他人事」ではなく「我が事」と考えることができるような住民主体の取組を支援していくことで、地域のつながりを活かしたまちづくりを進めていく。

【SDGsへの貢献】

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナリーシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤を作ろう | |

		作成日	令和 8 年 8 月 2 6 日
リーディングプロジェクト	健幸（けんこう）長寿のまちづくり	ゼネラルマネージャー	健康推進部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	健康推進部長、市民部長、福祉部長、環境クリーン部長、産業経済部長、街づくり計画部長、建設部長、教育総務部長		
幹事会メンバー	保健センター長、健康推進部次長、市民部次長、教育総務部次長、地域づくり推進課長、地域づくり推進課主幹、高齢者支援課長、国民健康保険課長、健康づくり支援課長、健康づくり支援課主幹、みどり自然課長、商業観光課長、農業振興課長、都市計画課長、道路維持課長、河川課長、スポーツ振興課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

健康で幸せを感じながらいつまでもいきいきと地域で暮らすためには、充実した医療体制はもとより、市民一人ひとりが自分の心と体を大切にする健康意識の向上が重要です。このため、多くの方が楽しめる“歩くこと”等を中心とした、生涯にわたって主体的に取り組むことができる健康づくり、体力づくりを進めていく必要があります。 また、人や自然との触れ合いは、心の豊かさや活力を育むことにもつながります。誰もが外に出て人や自然に触れ、活動したくなるように、所沢の豊かな自然を感じられる環境や、人々が憩い、楽しみを感じられるにぎわいの創出など、「歩いて」「楽しんで」健幸長寿を実感できるまちづくりを進めます。
--

【令和 7 年度に実施した事業】

≪「主な取り組み」にあたる事業≫

3-1-1 主体的な健康づくりの推進									
トコトコ健幸マイレージ事業								健康推進部健康づくり支援課 国民健康保険課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	I：事業規模拡大
3-5-1 スポーツ活動を通した健康・体力づくりの推進									
スポーツ教室開催事業								教育総務部スポーツ振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	II：継続
所沢シティマラソン大会開催事業								教育総務部スポーツ振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	II：継続

≪「関連する取り組み」にあたる事業≫

1-1-1 地域コミュニティの充実									
地域づくり支援事業（松井）								市民部松井まちづくりセンター	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	II：継続
地域づくり支援事業（富岡）								市民部富岡まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	II：継続
地域づくり支援事業（小手指）								市民部小手指まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	II：継続

地域づくり支援事業（山口）										市民部山口まちづくりセンター			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（吾妻）										市民部吾妻まちづくりセンター			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（柳瀬）										市民部柳瀬まちづくりセンター			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（三ヶ島）										市民部三ヶ島まちづくりセンター			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（新所沢）										市民部新所沢まちづくりセンター			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（新所沢東）										市民部新所沢東まちづくりセンター			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（所沢）										市民部所沢まちづくりセンター			
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続				
地域づくり支援事業（並木）										市民部並木まちづくりセンター			
貢献度	B：やや貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
1-4-1 自立した生活を継続するための取組の推進													
老人福祉センター等運営事業										福祉部高齢者支援課			
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
介護予防普及啓発事業										福祉部高齢者支援課			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
地域介護予防活動支援事業										福祉部高齢者支援課			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続				
4-2-1 生物多様性への理解と参加の推進													
生きものとみどり啓発事業										環境クリーン部みどり自然課			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続				
4-2-3 みどりと水の保全													
緑地管理整備推進事業										環境クリーン部みどり自然課			
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
里山保全地域等指定整備事業										環境クリーン部みどり自然課			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				
砂川堀水辺保全・散策路整備事業										建設部河川課			
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続				
5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化													
「所沢市観光情報・物産館」活用事業（COOLJAPANFOREST構想事業）										産業経済部商業観光課			
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続				
観光拠点の整備・充実事業										産業経済部商業観光課			
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続				
5-3-2 にぎわい拠点のネットワーク形成													
観光客回遊性創出事業										産業経済部商業観光課			
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続				
5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進													
ヘルスツーリズム産業創出支援事業										産業経済部商業観光課			
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続				

6-1-3 所沢らしい景観まちづくりの推進										
景観まちづくり推進事業								街づくり計画部都市計画課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続	
6-3-3 歩行者・自転車環境の整備推進										
自転車レーン整備事業								建設部道路維持課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続	

《寄与する事業》

3-1-3 食育の推進										
食育推進事業								健康推進部健康づくり支援課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
3-1-4 歯科口腔（こうくう）の健康保持・増進										
成人歯科保健指導事業								健康推進部健康づくり支援課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
3-2-2 生活習慣病予防の普及啓発										
成人健康教育・相談事業								健康推進部健康づくり支援課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
3-5-3 スポーツ活動の支援と環境整備										
体育施設管理運営事業								教育総務部スポーツ振興課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続	
体育施設整備事業								教育総務部スポーツ振興課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅰ：事業規模拡大	
5-3-4 農のあるまちづくりの推進										
地産地消推進事業								産業経済部農業振興課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅰ：事業規模拡大	
体験農場推進事業								産業経済部農業振興課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続	
6-1-1 計画的かつ合理的な土地利用の推進										
魅力ある街なか空間創出推進事業								街づくり計画部都市計画課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	

【評価及び今後の方針】

●主体的な健康づくりの推進

・「トコトコ健幸マイレージ事業」では引き続きスマートフォンアプリを活用し「歩くことを中心とした健康づくり」のコンセプトに基づき、本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして実施した。

参加者を増やすための取り組みとして、広報ところざわやSNS等を活用した情報発信を行うとともに、保健師等の地区活動や健康増進に関するイベント、庁内各課が発出するチラシや通知等を通じて多様な手法による周知を行った。

歩くことを促すため、令和7年10月から12月にウォーキング促進強化月間を設け、各月一日あたりの平均歩数が7,100歩以上の参加者を対象に、抽選で景品を贈呈する取り組みを実施した。

その結果、令和7年度末の登録者数は令和6年度末（9,325人）から1,133人増加の10,458人となり県内1位を維持、アクティブ率（※1）も令和8年3月末時点では62.77%と人口15万人以上の県内市町村の中では1位に位置し、歩くことによる健康づくりを着実に推進している。

その一方で、令和7年度の平均歩数は6,185歩となり令和6年度実績（6,374歩）から189歩減少した。国の「21世紀における第三次国民健康づくり運動（健康日本21（第三次））」や中之条研究（※2）において、平均歩数は生活習慣病の予防等の観点で指標となっていることから、本市も平均歩数の増加を目指し、引き続きウォーキング促進強化月間等の取り組みを実施していく。

（※1）アクティブ率…事業で活用するスマートフォンアプリを月に一度でも開いた人の割合

（※2）中之条研究…青柳幸利博士（東京都健康長寿医療センター研究所）による、歩きと疾病予防の関係について、群馬県中之条町で行われた疫学研究

・「食育推進事業」、「成人歯科保健指導事業」及び「成人健康教育・相談事業」において、歩くこと以外についても健康増進全般に係る各種教室等を開催したほか、健康情報を家族や友人に広める役割を担う「みんなで健康マイスター」の養成講習を開催した。今後も健康寿命の延伸と健康増進につなげる各種事業を実施していく。

●スポーツ活動を通した健康・体力づくりの推進

・「所沢シティマラソン大会開催事業」では、参加者の健康づくりと生涯スポーツの振興を目的に、市制施行75周年事業として第36回大会を開催した。定員を上回りコロナ禍以降最多となる5,545人のエントリーと、所沢警察署を含め約1,100人のボランティア役員の協力によって、盛大に開催することができた。今後も、参加者の健康づくりに加え、運営に関わったボランティア役員や沿道に応援に来た人など、広く生涯スポーツの振興を図ることができるよう取り組んでいく。

・「スポーツ教室開催事業」では、運動を通して健康維持を図るとともに、スポーツニーズに応え、生涯を通してスポーツに親しむきっかけをつくることを目的に計11回の教室を実施した。年齢や体力に関わらず誰でも楽しめるニュースポーツを体験できる場として「こどもスポーツフェア」（参加者70人）を開催したほか、まちづくりセンター等において「健康体操教室」（参加者延べ9,551人）を開催。多くの市民参加がある一方で、市民意識調査において週1日以上スポーツを行っている人の割合が令和7年度は49.2%となり、令和6年度の52.5%から3.3%減少している。今後は、スポーツに親しむきっかけづくりとして、引き続き教室の充実を図り、週1日以上スポーツを実施する人の割合が年々増加するよう、周知・啓発を行っていく。

・「体育施設管理運営事業」では、市民の余暇活動や健康増進に寄与することを目的に体育施設をスポーツ、レクリエーションの場として利用に供している。令和7年度の利用者数は814,579人となり、令和6年度の809,717人と比較して4,862人増加した（数値は延べ）。

・「体育施設整備事業」では、市民が安全で快適に利用できるよう、施設の整備・維持管理を行っている。良好な環境で、体育施設を提供することは、利用者の健康増進及び生涯スポーツの振興につながることから、今後も引き続き、所沢市公共施設等管理計画の内容に沿った整備の検討と、所沢市公共建築物修繕計画に基づく改修工事を行うほか、緊急性に応じ、随時、修繕を実施するなど、利用者が安心して利用できる施設の管理・運営をしていく。

●地域コミュニティの充実

・「地域づくり支援事業」では、富岡、三ヶ島、松井、山口の4地区で健康の増進と地域住民の交流を目的としたウォーキング大会が開催され、富岡地区では4地区で最多の175人の参加があった。このほかにも、地区の団体との共催でウォーキング大会を開催した。また、ポッチャやモルック大会、パークゴルフ大会、グラウンドゴルフ大会などが開催されるなど、スポーツを通じての健康増進に向けた取り組みが定着している。今後は、健康推進事業として定着しているスポーツ以外にも、健康推進に向けた事業についてニーズや課題の把握に努め、企画実施していく。

●自立した生活を継続するための取組の推進

・「老人福祉センター等運営事業」では、老人福祉センター等において、スマホ教室等の自主事業の充実や、エアロバイク等の購入により、施設の利用者数の向上に取り組んだ。年間利用者延べ人数は、老人憩の家は減少となったが、老人福祉センターが増加したことで、全体としては増加となり、一定の利用促進を図ることができた。今後も老人福祉センター等の利用を通して、高齢者の生きがいづくりを推進するため、通いたくなるような自主事業の充実など、利用者数の増加に資する取り組みを行う。

・「介護予防普及啓発事業」では、高齢者の自発的な介護予防を啓発するため、認知症アンケート（健幸のための「元気アップ大調査」）を実施し、介護予防教室や、認知症に関する正しい知識等の普及啓発を行うとともに、社会参加のきっかけづくりを行った。令和6年度よりも回答率が上昇したものの、約55%に留まっており、回答後送付されるアンケートの分析結果を基にしたアドバイス票を活用することで、自身の介護予防に役立てることができるというメリットについて周知が不足していることが要因と考えられる。引き続き回答率が上昇するよう工夫し、介護予防の自発的な取り組みを推進する。

・「地域介護予防活動支援事業」では、通いの場として、地域のボランティア団体であるお達者倶楽部に助成金を交付し、また、団体同士の情報交換の機会となる活動発表会を開催するなど、活動支援に取り組んだ。新規の会員が増えないこと、会員の高齢化等による運営の困難さから団体の解散が続いていたが、団体の活動支援や立ち上げ支援により、令和7年度の団体数が増加に転じた。お達者倶楽部等の高齢者の団体数は減少傾向にあるが、介護予防の一つとして通いの場への社会参加が有効であることから、引き続き活動の支援を行っていく。

●生物多様性への理解と参加の推進

・「生きものとみどり啓発事業」では、令和7年11月に、狭山丘陵の樹林地内を巡る「みどりのふれあいウォーク」を実施した。1,369人が参加したことから、みどりに対する興味関心を深めながら、健康づくりを推進することができたと評価する。今後も引き続きみどりのふれあいウォークを実施し、みどりへの理解と意識の向上を図るとともに、歩くことによる健康づくりの場を提供する。

●みどりと水の保全

・「緑地管理整備推進事業」では、市民が安全にみどりに触れ合う場を提供するため、除草やナラ枯れ被害木をはじめとする危険木の伐採等を行った。また、施設整備として、市民に公開している緑地の園内外の柵の設置や修繕等を行い、人と自然が触れ合う場が安全な状態に保たれるよう整備した。今後も、危険木の伐採、施設整備等を行い、市民が安心してみどりに触れ合える場を提供していく。

・「里山保全地域等指定整備事業」では、都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、樹林地の土地利用を制限する地域制緑地の指定範囲を0.33ha拡大し、市内に残された貴重なみどりを保全することができた。今後も所沢のかけがえのないみどりを継承するため、各種法令等に基づき、地域制緑地の指定及び拡大を行っていく。

・「砂川堀水辺保全・散策路整備事業」において、砂川堀や散策路の維持管理を行い、「東川桜舞う遊歩道事業」については、桜並木及び遊歩道の維持管理を行った。散策路や遊歩道を整備することにより、所沢の自然を知り親しめる機会の創出と歩きたくなる空間づくりに寄与することができた。所沢の自然を知り親しむことを通して、歩くことなどの運動を始めるきっかけをつくり、その運動を楽しみながら継続してもらうため、今後も散策路や遊歩道の整備や維持管理を行っていく。

●にぎわい拠点の創出・活性化

・「「所沢市観光情報・物産館」活用事業（COOL JAPAN FOREST 構想事業）」の「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO（よっとこ）」においては、本市の観光情報の提供や特産品のPR・販売等を行うことで、魅力発信拠点としての役割を引き続き果たすとともに、よっとこ夜市のほか、様々なイベントを開催することで、にぎわい拠点の創出・活性化を図った。よっとこ夜市等の新たなイベントを展開することで、令和7年度の来館者数は令和6年度の約227,000人から1万人ほど多い、約237,000人となり、地域のにぎわい創出・活性化に寄与した（数値は延べ）。今後も、YOT-TOKOでのイベント開催に加え、令和8年4月1日に供用を開始した「東川さくらデッキ」を活用し、様々な事業を展開していくことで、所沢市の魅力発信やにぎわい創出に寄与していく。

・「観光拠点の整備・充実事業」では、「まち」×「みどり」のおさんぽコース10選のうち「荒幡富士おさんぽコース」の道標を整備した。道標には二次元コードを掲示し、「歩くことによる健康づくり」についての情報発信を行った。対象が豊かな自然に囲まれた散策コースであることから、「人や自然とのふれあいを通じた心の豊かさや活力の醸成」に寄与していると評価できる。「まち」×「みどり」のおさんぽコースの整備を引き続き進め、市民のさらなる健康意識の向上と歩行習慣の定着を目指す。

・「魅力ある街なか空間創出推進事業」では、街なかの公共空間などを活用し、回遊性や滞在性の創出に向け、官民連携のまちづくり組織「ところざわエリアプラットフォーム」を設立した。旧町地区でまちづくり活動を実施している団体や多様なプレイヤーで構成する組織を設立できたことで、当該地区の持続可能な魅力づくりを推進していくための基盤が整った。同組織において、公共空間などの利活用による回遊性や滞在性を向上させていくための街の将来像となるビジョンの策定や具体的な取り組みの支援を実施していく。

●にぎわい拠点のネットワーク形成

・「観光客回遊性創出事業」では、シェアサイクルについて、令和7年度の利用者数は令和6年度実績（45,831人）から10,646人増加の56,477人、利用回数は令和6年度実績（116,817回）から31,761回増加の148,578回となった（数値は延べ）。依頼のあった場所へ新たにポートを設置するなど、令和7年度はポート数を31か所増設して計139か所とし、シェアサイクルをより身近に利用できる環境整備に取り組んだ。さらなる利便性の向上を図るため、今後もポート数の拡大に継続して取り組む。

●観光を軸としたブランド化の推進

・「ヘルスツーリズム産業創出支援事業」では、自然の中を安全に無理なく歩く「クアオルト健康ウォーキング」について、個人ツアーを8回、法人ツアーを1回実施した。従来の荒幡富士特別緑地保全地区コースでは27人、上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域コースでは15人が参加したほか、所沢航空記念公園で無料体験コースを実施した。誰もが気軽に参加できる内容とし、22人が参加した。個人ツアーの参加者定着を図るため今後も年8回での開催を継続し、観光と健康を融合した事業を展開していく。

・「地産地消推進事業」では、市内飲食店とともに里芋と茶を使った新メニューを提供したほか、西武学園医療技術専門学校とともに地産地消レシピを開発した。また、地産地消レシピのうち特に優秀なレシピを表彰し、その考案者を講師とした親子参加型の料理教室を開催した。市内飲食店とのコラボメニューは期間限定ではあるものの、来店者には好評であり、購入のための出歩きにつながった。親子参加型の料理教室では、親子の思い出深い体験を提供できたことに加え、所沢農産物に興味を持ってもらうことができた。所沢産の狭山茶や里芋と一目でわかるパッケージの作成やイベントを活用しながら、所沢産農作物の消費拡大に向け関心を高めていき、引き続き健康意識の向上につなげていく。

・「体験農場推進事業」では、農業者以外の方に貸出す農地について、一部区画を細分化したことにより多くの市民の利用が可能となった。今後も多くの方に利用していただき、農業への理解を深めてもらうとともに、農場で自ら野菜を育て収穫し味わう体験を通して健康意識を高める機会を提供していく。

●所沢らしい景観まちづくりの推進

・「景観まちづくり推進事業」では、令和6年度に引き続き、一般公開している個人宅の草花や庭木などのガーデニング及び市民から推薦された景観資源のうち景観賞として表彰された資源を「とことこガーデンマップ」に記載した。また、景観資源をホームページ等で紹介するとともに、景観市民活動クラブと実施した景観資源を巡る「みて歩きマップ」を作成、景観展示会で紹介することにより、外出して街歩きをし、健康づくりへつながるきっかけづくりに寄与した。今後も「とことこガーデンマップ」の更新や景観資源の登録・周知を継続して行い、より一層所沢らしい良好な景観づくりを進めるとともに健康づくりを高める機会を提供していく。

●歩行者・自転車環境の整備推進

・「自転車レーン整備事業」については、令和7年度は通学路の安全対策に重点を置き、自転車レーンの整備は見送ることとなった。市内の県道と国道を管理している埼玉県川越県土整備事務所及び道路交通を担当する埼玉県警察とも連携を図り、自転車レーンの整備延伸に努め、歩行者や自転車など誰にとっても通行しやすい空間を創出していく。

【総評】

“健幸（けんこう）長寿のまちづくり”では、市民一人ひとりが健康意識を持つこと、本市が外に出て活動したくなるような魅力的なまちとなることの両方が重要である。

そのため、特に、運動を始めるきっかけをつくり、運動を楽しみながら継続してもらうことが必要となるほか、運動以外の視点から健康意識の向上を図ることも重要である。特に、前述の中之条研究において、健康寿命の延伸を図る上で一日の歩数が重要な要素であることが実証されていることから、歩くことへの動機づけ、行いやすさへの工夫については留意して取り組みたい。

運動を始めるきっかけづくりとしては、ウォーキングイベントをはじめ、マラソン大会やスポーツ教室、体操教室といった幅広い世代が取り組むことができる事業を実施した。

運動を楽しみながら継続できるまちづくりとしては、所沢の自然の保全や散策路の整備、「所沢市観光情報・物産館YOT-TOKO」でのイベント開催などによるにぎわい拠点の創出、「みて歩きマップ」の作成、地域の特性を活かした地域づくり支援事業などを実施し、歩きやすく歩きたくなるまちづくりに努めた。加えて、市内の公園に設置している健康遊具の活用方法に関するオリジナルストレッチ動画の作成・公開を行い、日々の健康づくりを後押しした。

また、「トコトコ健幸マイレージ事業」については、参加により歩くきっかけづくりになるとともに、運動量が見える化され、楽しみながら運動を継続できる効果が期待されることから、引き続き本市の健康増進事業の中心的な取り組みとして実施していく。

そのほか、運動以外の視点として、各種健康教室や介護予防教室の開催、体験農場で食の生産に携わることによる健康意識の向上など多角的に健幸長寿に資する取り組みを実施した。

以上のような取り組みを各部署が着実に進めてきたことで、本市の健康寿命（※）は、平成27年度から令和6年度までの10年間で延伸傾向にあり、これまでの取り組みがその一助になったと考える。そのため、市民の主体的で継続的な運動を促す環境づくりや健康意識の向上を図るための事業を各部署連携しながら引き続き“健幸（けんこう）長寿のまちづくり”を推進していく。

（※）健康寿命：埼玉県が定める、65歳以上に達した県民が健康で自立した生活を送ることができる期間（介護保険制度における「要介護2以上」になるまでの期間）に65歳を加えて算出したもの。埼玉県衛生研究所の令和7年度公表の最新データによる。

《所沢市健康寿命》

平成27年度 → 令和6年度

男性：82.79歳 → 83.33歳（0.54年延伸）

女性：85.35歳 → 86.14歳（0.79年延伸）

令和6年度について、人口15万人以上の県内自治体の中では男女ともに1位である。

【SDG s への貢献】

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 貧困をなくそう | 10 人や国の不平等をなくそう |
| 2 飢餓をゼロに | 11 住み続けられるまちづくりを |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 12 つくる責任 つかう責任 |
| 4 質の高い教育をみんなに | 13 気候変動に具体的な対策を |
| 5 ジェンダー平等を実現しよう | 14 海の豊かさを守ろう |
| 6 安全な水とトイレを世界中に | 15 陸の豊かさを守ろう |
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 16 平和と公正をすべての人に |
| 8 働きがいも経済成長も | 17 パートナリシップで目標を達成しよう |
| 9 産業と技術革新の基盤を作ろう | |

		作成日	令和 8 年 8 月 2 8 日
リーディングプロジェクト	人と自然が共生するまちづくり	ゼネラルマネージャー	環境クリーン部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	環境クリーン部長、市民部長、健康推進部長、街づくり計画部長、建設部長、学校教育部長、上下水道局長		
幹事会メンバー	環境クリーン部次長、マチごとエコタウン推進課長、みどり自然課長、資源循環推進課長、山口まちづくりセンター長、健康づくり支援課長、都市計画課長、土地利用推進課長、道路建設課長、道路維持課長、公園担当参事、河川課長、学校教育担当参事、教育センター担当参事		

【リーディングプロジェクトの方向性】

「気候危機」という言葉も使われるほど、気象や気候の極端な現象が地球規模で頻発するなど、地球温暖化による気候変動の影響が深刻さを増しています。また、この影響は、生物多様性の損失につながる可能性があります。地球温暖化の影響を抑えるためには、産業革命前からの世界の平均気温の上昇を1.5℃以下に抑える必要があり、2030 年までに温室効果ガス排出量を約50%削減、2050 年までに実質ゼロにすることが求められます。 本市では「所沢市脱炭素社会を実現するための条例」を制定し、環境負荷の少ない再生可能エネルギーの普及、省エネルギーの推進、資源化によるごみの減量など、市民・事業者・市が一体となって、温室効果ガス排出量削減の取組を進めるとともに、豊かなみどりの保全・創出を進め、「ゼロカーボンシティ」の実現をめざしています。 そして、これらの取組を一層推進するため、環境教育・環境学習を充実させ、自然や環境について学ぶ場や機会を提供するなど、一人ひとりの環境意識の向上と次世代を担う人材の育成を図るとともに、教育、福祉、健康や産業などの分野と有機的につなげることで、みどりあふれる持続可能なエコタウンを構築します。	
--	--

【令和 7 年度に実施した事業】

《「主な取り組み」にあたる事業》

4-1-1 地球温暖化緩和策の推進									
スマートハウス化推進補助事業								環境クリーン部マチごとエコタウン推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
所沢市からはじめるマチごとゼロカーボン運動事業								環境クリーン部マチごとエコタウン推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続
4-1-2 エネルギー使用に伴う環境負荷の低減									
まちづくりセンター施設整備事業（山口公民館太陽光発電設備設置工事）								市民部山口まちづくりセンター	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	V：事業終了
公共施設太陽光発電設備設置事業								環境クリーン部マチごとエコタウン推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
公共施設LED一括導入事業								環境クリーン部マチごとエコタウン推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
再生可能エネルギー普及推進事業								環境クリーン部マチごとエコタウン推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
4-1-3 気候変動の影響への適応									
所沢市総合治水対策事業（清柳橋改築事業）								建設部道路建設課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅳ：事業規模縮小
雨水流出抑制指導事業								建設部河川課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続

4-2-2 人と自然との絆の強化									
みどりのパートナー活動推進事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続
4-2-3 みどりと水の保全									
みどりの基本計画推進事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
緑地管理整備推進事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
里山保全地域等指定整備事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
保存樹木等指定促進事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
みどりの創出事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
水田景観保全事業								環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
北秋津・上安松地区都市緑地保全事業								建設部公園課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
ふるさとの川再生事業								建設部河川課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
東川桜舞う遊歩道事業（COOLJAPANFOREST構想事業）								建設部河川課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
砂川堀水辺保全・散策路整備事業								建設部河川課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続
4-3-2 ごみ処理に要するエネルギー消費の低減									
チャレンジ生ごみ減量推進事業								環境クリーン部資源循環推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続

《「関連する取り組み」にあたる事業》

2-5-2 豊かな心の育成									
豊かな心育成支援事業								学校教育部教育センター	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
3-1-1 主体的な健康づくりの推進									
トコトコ健幸マイレージ事業								健康推進部健康づくり支援課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	I：事業規模拡大
6-1-1 計画的かつ合理的な土地利用の推進									
土地利用転換推進事業								街づくり計画部土地利用推進課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
6-1-3 所沢らしい景観まちづくりの推進									
景観まちづくり推進事業								街づくり計画部都市計画課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続
6-3-3 歩行者・自転車環境の整備推進									
自転車レーン整備事業								建設部道路維持課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続

6-4-1 交通政策の推進と公共交通の充実									
地域循環乗合ワゴン（ところワゴン）運行事業								街づくり計画部都市計画課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
市内循環バス（ところバス）運行事業								街づくり計画部都市計画課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続

《寄与する事業》

2-5-1 確かな学力と自立する力の育成									
地球にやさしい学校づくり推進事業								学校教育部学校教育課	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続
2-5-3 地域が信頼する学校づくりの推進									
特色ある学校づくり支援事業								学校教育部学校教育課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続

【評価及び今後の方針】

●地球温暖化緩和策の推進（温室効果ガス排出量の削減）

・本市におけるCO2排出量の約55％が民生家庭・業務部門から排出されていることから、既存住宅等の環境性能の向上、再生可能エネルギーの導入及び省エネルギー化推進するため「スマートハウス化推進補助事業」を実施した。建築物への直接的なCO2削減策として引き続き実施していく。なお、補助金の財源の一部は市施設で発電した電気の売電収入を「まちごとエコタウン推進基金」に積み立てて活用している。

【令和7年度実績】

○家庭1,318件、事業者1件に補助金を交付しCO2排出量を合計1,485t削減することができた。

・市民の消費行動の変容や事業者の脱炭素経営の推進を目的とする周知・啓発活動「所沢市からはじめるまちごとゼロカーボン運動事業」を実施した。地球温暖化による影響が深刻化する状況であるため、これまで以上に市民・事業者に自分事として捉えてもらう必要がある。特に、若い世代との協働による取組や事業者の脱炭素経営を後押しする環境教育・普及啓発活動を一層強化していく。

【令和7年度実績】

○脱炭素に資する会議、イベント、出前講座を18回開催した。

○脱炭素経営ネットワーク交流会には55団体119名が参加し、市内事業者の脱炭素経営への機運を醸成した。

●エネルギー使用に伴う環境負荷の低減（低炭素型ライフスタイルの定着・再生可能エネルギーの推進）

市の事務事業におけるエネルギー使用の低減策として以下の事業を実施した。

【令和7年度実績】

・山口まちづくりセンターの平時における外部からの電力購入の削減によるCO2排出量の削減に加え、発災時の現地災害対策支部としての機能維持に資するものとして、屋上防水シート改修に合わせて太陽光発電設備及び蓄電池等を設置したことにより、設置後の1月分～3月分の電気料金を前年度との比較で267,790円抑えることができ、余剰電力についても同期間で4,912円の売電を行うことができた。

令和7年12月26日に施工が完了し、今後は当該設備の適正管理に務める。

・公共施設太陽光発電設備設置事業では、環境省からの補助金を活用して6つの公共施設（松井まちづくりセンター、保健センター、収集管理事務所、中富南コミュニティセンター、リサイクルふれあい館、生涯学習推進センター）に太陽光発電設備と蓄電池を、維持管理業務を含めた包括リース方式により導入した。今後は賃貸借契約に基づき適切な維持管理を継続していく。賃貸借期間満了後の設備の所有権については事業者と協議のうえ定める必要がある。

本事業により、現時点で設置可能な市の施設への太陽光発電設備の導入はほぼ完了している。今後施設が新たに建設される場合には、その施設の形状や立地場所等の諸条件、発電・蓄電設備の性能及び財政状況を踏まえて導入を検討する。また設置済みの施設においては適切な維持管理を進めるとともに、経年劣化等の状況を踏まえた更新・廃棄等の在り方について検討していく必要がある。

・照明による電気使用量及びCO2排出量を削減するため、公共施設LED一括導入事業の事業者選定を行った。照明交換、維持管理及び省エネルギー効果検証を一体で行うESCO事業により、施工は令和8年度から令和10年度の間に、令和9年度から11年度の間に維持管理（初期不良対応）及び省エネルギー効果検証を行う。なお、市の施設のLED化についてはこの事業で188の施設で導入する他、市庁舎及び小中学校46校の校舎についてもLED化を進めている。

●気候変動の影響への適応

・柳瀬川における今後の浸水被害の軽減を図るために、東川との合流点下流に位置する清柳橋について、埼玉県及び清瀬市と共同で架換えを進めている。令和7年度は、埼玉県で旧清柳橋の上部工撤去工事を行った。

・開発事業区域内の雨水について、雨水流出抑制施設の適切な設置を事業者に指導し、当該区域外への雨水の流出を抑制することにより、流域河川の負荷軽減を進めた。今後も引き続き、雨水流出抑制施設の適切な設置を指導する。

●人と自然との絆の強化

本市のみどりをより豊かにする市民活動を推進するため、みどりのパートナー団体に対する育成講座の開催や補助金の助成により活動を支援している。多くの団体が高齢化や担い手不足の課題を抱えており、登録解除となる場合もあることから、今後も新たな参加者が加わるような講座開催等の支援と共に、みどりのパートナー制度についての周知等を図っていく。

【令和7年度実績】

○みどりのパートナー登録状況（年度末）：60団体及び個人18人（合計1,565人）

○みどりのパートナー育成講座：令和6年度から実施している、多年草を中心とした花壇作成の講座の2年目。

7団体（10名）、個人登録者1名、一般参加23名、合計34名が参加。

○活動支援補助金の交付：みどりの保全活動団体23団体、緑化の推進活動団体26団体、合計49団体に交付。

●みどりと水の保全

緑地と河川の保全・整備を通じて広域的につながる「水とみどりがつくるネットワーク」を構築し、その魅力を高めることにより、自然と触れ合い、その恵みを享受できるよう取組を進める。なお財源の一部には緑の基金や森林環境譲与税を活用している。

また、地球温暖化の影響の深刻さが増す中で、みどりと水の存在は気温上昇の抑制にも資するものであるが、樹木は環境変化と老朽化により伐採を余儀なくされるものが目立つようになってきている。

【令和7年度実績】

○里山保全地域等指定整備事業では都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、地域制緑地の指定範囲を0.33ha拡大した。今後も未来のこどもたちに所沢の貴重なみどりを継承するため、各種法令等に基づいて樹林地の土地利用を制限する地域制緑地の指定及び拡大を行っている。

○北秋津・上安松地区都市緑地の事業用地2,285.27㎡を取得した。引き続き、地権者の理解を得ながら、計画的に都市緑地を取得し、適正な維持管理に努める。

○砂川堀の自然を知り親しむことを目的として整備した散策路の維持管理、及び河川や湿地を保全するため既存樹木の剪定等を行った。今後も砂川堀散策路の整備を進め、みどりと水の保全を図るとともに、砂川堀の自然を知り親しむ機会を創出する。

○「COOL JAPAN FOREST構想」における周辺環境整備の一環として実施している東川桜舞う遊歩道事業については、東川沿いの桜を一層魅力的なものにするため桜並木及び遊歩道の維持管理を行った。今後も東川沿いの桜並木の維持管理等を行い、魅力の向上に努める。

● ごみ処理の低炭素化の推進（ごみ処理に要するエネルギーの低減）

ごみの処理では収集、分別、処理（資源化・焼却）それぞれの段階で環境負荷が生じているため、着実に3Rを進めていくことが重要である。令和7年3月に所沢市ごみ減量等推進審議会から「ごみ減量・資源化に関する方策について」答申を受けており、市民・事業者・行政の協働による減量・資源化、市民への分かりやすい説明、十分な検証を経ての新たな施策の実施が求められ、6つの具体的な項目も示された。現行の収集処理等を着実かつ効率的に行いながら、答申内容も踏まえて事業に要するエネルギーの低減化に取り組む。

【令和7年度実績】

○家庭から出る燃やせるごみの約4割といわれる生ごみを減量するため、家庭で簡単にできる生ごみ処理の方法について普及啓発を図るとともに、生ごみ処理機の購入に対し、163基分の奨励金を交付した。

○東部クリーンセンターにおけるごみ焼却発電による場内電気使用量賄率は100%である。自家消費分を除く余剰電力は（株）ところざわ未来電力を通じて市の施設等で使用されることにより、市の事務事業におけるCO2削減に寄与している。

● 豊かな心の育成

「豊かな心育成支援事業」では、引き続き、自然や環境に関する取組を通し、生命尊重や自然への畏敬の念を培えるようにする。

【令和7年度実績】

教職員の資質向上を図るため、市内小中学校に勤務する教職員を対象に「豊かな心育成研修会」を開催し、95人が参加した。

● 確かな学力と自立する力の育成

「地球にやさしい学校づくり推進事業」では、環境活動が円滑に実施できるように児童生徒及び教職員、並びに家庭や地域とも連携を図りながら事業を実施していく。また、実施した内容は活動のねらいを十分達成できたかを点検、記録、見直しを行い、翌年度の計画に反映させていく。

【令和7年度実績】

全小中学校において「地球にやさしい学校」活動報告書を作成した。

● 地域が信頼する学校づくりの推進

「特色ある学校づくり支援事業」では、各学校が地域の環境や人材を生かし、創造性あふれる教育課程の編成と事業を実施するための支援を引き続き行っていく。

【令和7年度実績】

「特色ある学校づくり支援事業」において、3,391人の地域人材を活用した。

● 主体的な健康づくりの推進

「トコトコ健幸マイレージ事業」については、引き続きスマートフォンアプリを活用し「歩くことを中心とした健康づくり」のコンセプトに基づいて実施した。参加者を増やすための取組として、広報ところざわやSNS等を活用した情報発信を行うとともに、保健師等の地区活動や健康増進に関するイベント、庁内各課が発出するチラシや通知等を通じて多様な手法による周知を行った。その結果、令和7年度末の登録者数は令和6年度末（9,325人）から1,133人増加の10,458人となり、多くの方に移動手段として歩くことを意識していただき、CO2排出量の削減に寄与することができた。今後も歩くことによる健康づくりを推進することで、環境負荷の軽減にもつなげていく。

● 計画的かつ合理的な土地利用の推進

土地区画整理事業地内や周辺にある既存緑地の保全を目的に設計や工事を行った。今後も自然環境と調和した計画的な住宅地や産業団地の創出に取り組む。

● 所沢らしい景観まちづくりの推進

個人宅の草花や庭木などのガーデニングのほか、所沢らしい景観を市民の推薦で景観資源として登録し、「とことこガーデンマップ」に掲載した。また、景観市民活動クラブと実施した景観資源を巡る「みて歩きマップ」を作成し、景観展示会で紹介するなど、市民への周知を行うとともに良好な景観づくりにより、外出してまち歩きを楽しむ契機とした。これらの取組により“まちなかみどり”の維持・創出を進め、住環境の向上を図ることができた。

● 歩行者・自転車環境の整備推進

令和7年度は通学路の安全対策に重点を置き、自転車レーンの整備は見送ることとなった。市内の県道と国道を管理している埼玉県川越県土整備事務所及び道路交通を担当する埼玉県警察とも連携を図り、自転車レーンの整備延伸に努め、歩行者や自転車など誰にとっても通行しやすい空間を創出していく。

●交通政策の推進と公共交通の充実

交通不便地域の解消及び生活関連施設へのアクセス向上を目的として、令和5年から実証運行を開始した柳瀬地区、富岡地区のところワゴンについては、各地域の意見等を踏まえ、地域に適した路線やダイヤに見直しを実施するとともに、令和8年3月に本格運行へ移行した。

また、ところバスについては、EV車両を1台追加導入して計3台となり、排出ガスの抑制に寄与した。

【令和7年度実績】

○令和7年度の利用者は令和5年度から比較して、ところバスは45,739人、ところワゴンは29,073人増加した。

【総評】

市は「2050年までに市内の二酸化炭素排出量を実質ゼロとするゼロカーボンシティ」を宣言（2020年11月3日）するとともに「所沢市脱炭素社会を実現するための条例」を施行（2023年4月1日）し、2050年のゼロカーボンシティの実現に向けて取組を進めている。その過程における温室効果ガス排出量削減の目標値は2030年度に国よりも高い2013年度比51%としているが、令和6年度（2024年度）のマチごとエコタウン推進計画における実績値は当該年度の目標値を下回るなど、近年の猛暑の影響が市民の生活や事業活動に及んでいると推測される。

生きものの棲みかとなる豊かなみどりや水辺の保全・創出については、地域制緑地の指定や市有地としての確保（購入・寄附受入）により着実に整備を進めている。維持管理に関しては市の経費により行うもののほか、市民団体等の協力により実施している場所がある。近年では民間企業がそうした活動に積極的に関わる事例がある一方で、従来からのみどりのパートナー団体等については高齢化や担い手不足などにより登録者数が減少傾向にある。現在登録済みのそうした団体に対しては引き続き支援を行うとともに、団体間の情報交換の場や共同作業の機会を設けるなどの活性化策を講じながら、新たな参加者が加わるような取組も必要になっている。

また、本市においてはこれらの事業の財源の一部に基金からの繰入金を充当している。マチごとエコタウン推進基金については市の施設での太陽光発電の売電収入を、緑の基金については多くの人からの寄付を主な収入源としているが、これらにより事業費の全てを賄うことはできないため、効率的かつ効果的な事業の立案・実行と併せて、収入増加策や新たな財源の確保について検討が必要である。

関連する取組のうち、公共交通に関しては、路線や便数の充実により自家用車利用からの切替えなどのライフスタイルの転換による温室効果ガス排出量の削減が期待される。一方で運行の増加に伴う排出量の増加も見られることから、使用する車両等の選択や適正な維持管理が必要である。

健康増進に関しては、郊外の豊かな樹林地や市街地における身近な緑地等、地域の特性を生かして魅力あるみどりや水辺地を保全・創出することにより外出・散策への動機づけとなる。同時に、みどりの魅力に触れた人たちが豊かな自然の保全に関心を持つきっかけとなることも期待され、歩行機会の提供から保全作業に参画することによる活動量の増加や精神面での効果など、相互に関連して成果を上げていくことが期待される。

ゼロカーボンシティの実現やみどりの保全・創出には一人ひとりの環境意識の向上と次世代を担う人材の育成が重要であることから、「豊かな心育成事業」などにより子どもや若い世代が身近な自然に親しみ、生命のつながりや尊さを学ぶ機会を通じて自然愛護の心を育成することが重要である。そうした点からも、特色ある学校づくりにおいて各校が工夫しながら学校経営を行って学校教育が社会に開かれ、家庭・地域と連携することや、各所管において若年層を対象とする講座・イベントを実施していく必要がある。

これらのことから、「人と自然が共生するまちづくり」の実現に向けては取組の更なる効率化を進めながら、レジリエンスや地域経済の活性化などの脱炭素以外の社会課題にも貢献するような庁内連携の取組を強化し、市民・事業者・市の各主体が地球温暖化を自分事として捉えてスピード感をもつよう取り組んでいく必要がある。

【SDG s への貢献】

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう

- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

		作成日	令和 8 年 8 月 2 8 日
リーディングプロジェクト	所沢の魅力を高めるまちづくり	ゼネラルマネージャー	産業経済部長
未来(あす)を紡ぐミーティング(ATM)メンバー	経営企画部長、市民部長、環境クリーン部長、産業経済部長、街づくり計画部長、教育総務部長		
幹事会メンバー	産業経済部次長、経営企画部次長、経営企画担当参事、文化財保護担当参事、企画総務課長、広報課長、地域づくり推進課長、文化芸術振興課長、みどり自然課長、産業振興課長、商業観光課長、農業振興課長、市街地整備課長、スポーツ振興課長		

【リーディングプロジェクトの方向性】

まちの活性化を進めていくためには、多岐にわたる本市の魅力を、にぎわい拠点や多くの人々が集うイベントなどを通じて、市民や国内はもとより海外にまで伝えられるよう、十分に活かしていく必要があります。 本市は「日本の航空発祥の地」として知られるほか、狭山湖や狭山丘陵に代表される都市近郊の豊かなみどり、歴史の中で育まれてきた重松流祭囃子などの伝統文化や秋田家住宅などの歴史的建造物、狭山茶・さといもなどの農産物、世界農業遺産にも認定された「武蔵野の落ち葉堆肥農法」、焼だんごや手打ちうどんといった食文化など、生活に身近な魅力があります。 また、国内外から多くの人々が訪れる、所沢航空記念公園や西武ドーム球場とその周辺のボールパーク、世界的に著名な建築家がデザインを手掛けた「ところざわサクラタウン」、「音楽のあるまちづくり」による豊かな音楽文化や新たな交流の創出など、市民それぞれが愛着を持ち誇りに思える数多くの「所沢ブランド」もその魅力です。 こうした所沢の豊かなみどりと多彩な文化の魅力を市内外に伝えるため、インバウンドに対応した多言語表示や通信環境の整備、地元商店や地域における来訪者の受入に備えた取組の推進など、訪れて楽しい空間づくりや市内の魅力ある観光拠点、商店街などへの回遊性の質を高めるとともに、「所沢市民フェスティバル」や「ところざわまつり」「ところざわ新茶まつり」などをはじめとする様々な機会を通じて、「所沢ブランド」として発信していきます。 また、全国に向けて市の魅力を発信するため、ふるさと応援寄附を推進します。
--

【令和 7 年度に実施した事業】

《「主な取り組み」にあたる事業》

5-2-1 地域を牽引する事業者等への支援									
地域産業を牽引する事業者等支援事業								産業経済部産業振興課	
貢献度	B: やや貢献している	必要性	B: 変わらない	効率性	B: 余地はある	進捗状況	B: 計画通り	方向性	II: 継続
地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業								産業経済部産業振興課	
貢献度	A: 貢献している	必要性	A: 高まっている	効率性	B: 余地はある	進捗状況	A: 計画以上	方向性	II: 継続
ふるさと応援寄附推進事業								産業経済部産業振興課	
貢献度	A: 貢献している	必要性	A: 高まっている	効率性	B: 余地はある	進捗状況	A: 計画以上	方向性	II: 継続
5-3-1 にぎわい拠点の創出・活性化									
「所沢市観光情報・物産館」活用事業 (COOL JAPAN FOREST構想事業)								産業経済部商業観光課	
貢献度	A: 貢献している	必要性	B: 変わらない	効率性	B: 余地はある	進捗状況	A: 計画以上	方向性	II: 継続
にぎわいトコロ創出支援事業								産業経済部商業観光課	
貢献度	B: やや貢献している	必要性	B: 変わらない	効率性	A: 余地はない	進捗状況	B: 計画通り	方向性	II: 継続
観光案内作成事業								産業経済部商業観光課	
貢献度	B: やや貢献している	必要性	B: 変わらない	効率性	A: 余地はない	進捗状況	C: 計画通りでない	方向性	II: 継続

5-3-3 観光を軸としたブランド化の推進										
所沢ブランド特産品推進事業									産業経済部産業振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
ブランド価値の向上事業									産業経済部商業観光課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
2025年大阪・関西万博お茶が織りなす日本文化展事業									産業経済部農業振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅴ：事業終了	
5-3-4 農のあるまちづくりの推進										
地産地消推進事業									産業経済部農業振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅰ：事業規模拡大	
所沢農産物ブランド化推進事業									産業経済部農業振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅰ：事業規模拡大	
世界農業遺産武蔵野の落ち葉堆肥農法推進事業									産業経済部農業振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
5-3-5 観光客誘致・受入体制の強化										
インバウンド戦略推進事業（COOLJAPANFOREST構想事業）									産業経済部商業観光課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続	
効果的な観光客誘致プロモーションの推進事業									産業経済部商業観光課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続	
5-6-1 個性あふれる文化の創造										
音楽のあるまちづくり推進事業									市民部文化芸術振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅰ：事業規模拡大	
市民文化センター管理運営事業									市民部文化芸術振興課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
5-6-2 文化財の調査・保存・活用										
滝の城跡整備事業									教育総務部文化財保護課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	A：計画以上	方向性	Ⅱ：継続	
文化財公開活用事業									教育総務部文化財保護課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
歴史的建造物整備活用事業									教育総務部文化財保護課	
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	

≪「関連する取り組み」にあたる事業≫

4-2-1 生物多様性への理解と参加の推進										
生きものとみどり啓発事業									環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続	
4-2-3 みどりと水の保全										
みどりの基本計画推進事業									環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続	
里山保全地域等指定整備事業									環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
水田景観保全事業									環境クリーン部みどり自然課	
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	

6-2-1 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進										
ファルマン通り交差点外無電柱化整備事業								街づくり計画部市街地整備課		
貢献度	A：貢献している	必要性	A：高まっている	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
日東地区まちづくり事業								街づくり計画部市街地整備課		
貢献度	B：やや貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	C：計画通りでない	方向性	Ⅱ：継続	
所沢駅ふれあい通り線道路築造事業（1工区）								街づくり計画部市街地整備課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
7-4-3 地域の総合力の向上										
COOL JAPAN FOREST構想推進事業								経営企画部経営企画課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
ダイアプラン推進事業								経営企画部経営企画課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	B：余地はある	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	
所沢Mixカルチャーフェスタ開催事業								経営企画部経営企画課		
貢献度	A：貢献している	必要性	B：変わらない	効率性	A：余地はない	進捗状況	B：計画通り	方向性	Ⅱ：継続	

【評価及び今後の方針】

● 地域を牽引する事業者等への支援

・地域産業を牽引する事業者等支援事業については、対面訪問を実施し経営上の課題をヒアリングした。また、本市支援施策だけでなく、国や県の支援施策も紹介することで総合的な課題解決の一助となるよう努めた。今後も事業者へのヒアリングをもとに事業の充実を図っていく。

・地域資源活用・ものづくり総合支援補助事業については、新商品やサービスの開発、販路拡大にかかる経費の一部を補助金として交付することで地域経済の活性化に寄与した。事業者は新たな設備の導入等により製品の生産性や品質を高めることができた。本事業は小規模事業者の生産性向上や地域産業の活性化を図る上で効果的であることに加え、新製品が開発されることで、新たなふるさと応援寄附の返礼品が生まれる可能性があることから、より一層の補助事業の周知や充実に向け取り組んでいく。

・ふるさと応援寄附推進事業については、寄附に係る返礼品の提供を行い、約1億8,600万円の寄附を集めた。今後も返礼品の拡充を図り、寄付額の増額を図っていく。

● にぎわい拠点の創出・活性化

・所沢市観光情報・物産館を指定管理者により管理運営し、所沢ブランド特産品や所沢産野菜等の販売、飲食スペースでの武蔵野うどん等の提供、季節に合わせたイベントの実施を通して、本市の魅力を発信し、にぎわいを創出した。来館者数は昨年度と比較して約1万人増加した。

今後は飲食メニューの見直しや、新規イベント・市外への出店等を実施し、地域住民だけでなく、新たな顧客を獲得できるよう努める。

・市内を歩きやすく、また、歩きたくなるようにするために、まちのにぎわいと美しく豊かなみどりを巡る「まち」×「みどり」のおさんぽコース10選のうち「荒幡富士おさんぽコース」の老朽化した道標10基を撤去し、そのうち6基を更新した。

・既存の観光ガイドブックの内容を元に、折り込みのリーフレット型の観光PRチラシを作成した。所沢市観光大使である辰巳雄大氏の協力の元、観光PRポスター4種類を作成した。

・人と人、物が巡りあうことのできる地域の特性を生かしたにぎわい拠点（にぎわいトコロ）の創出・活性化に向けた事業について、令和7年度は10件の補助を行った。今後も更なるにぎわい拠点の充実のため、にぎわいトコロ創出支援事業補助金のPR活動を行っていく。

● 観光を軸としたブランド化の推進

・所沢らしさを追求した魅力ある逸品「所沢ブランド特産品」の第8回認定審査会を実施し、4商品を新たに選定した。今後は販路支援に重点を置き、認知度向上のため積極的な情報発信を行っている。

・販路支援においては、所沢ブランド特産品の特設WEBサイトにて認定商品（46商品）及び開発者の紹介を行うとともに、広報ところざわやSNS（Instagram）を活用した商品紹介を行い、認知度向上に努めた。また、所沢市民フェスティバルに出展するなど、イベント参加による販路支援を行った。

・本市のブランド価値を高め、ふるさと所沢への愛着の醸成を図るため、所沢を本拠地とするプロスポーツチームである「埼玉西武ライオンズ」、「さいたまブロンコス」との連携を推進した。両チームをきっかけに本市を訪れる人も多く、観光資源としての役割を果たしている。令和7年度には、埼玉西武ライオンズとはフレンドリーシティ感謝デーへの出展をはじめ、小学生を対象としたベースボールチャレンジなど様々な事業を協働で実施している。また、さいたまブロンコスにおいては、ホームゲーム開催時にところんによる現地応援を実施し「所沢市×さいたまブロンコス」の連携をアピールしたほか、小中学生を対象とした無料招待などを実施した。

・2025大阪・関西万博「LOCAL JAPAN展（Tea Journey～日本茶の文化と風味を楽しむ～）」では、1万人を超える来場者をはじめ世界に向けて狭山茶の魅力を発信した。この結果、茶生産者のモチベーションや生産意欲の向上につながったほか、出展を契機として狭山市や入間市との連携がさらに深まり、協働でのPRイベントの開催を実現した。今後は、連携体制を活かし、さらなるPR活動やイベントの展開で、茶生産地としての魅力をより一層高めていく。

● 農のあるまちづくりの推進

・例年実施している農業祭での農業者と連携した農産物PRに加え、西武学園医学技術専門学校と協働でレシピ開発および考案者の表彰を兼ねた親子参加型の料理教室を開催し、「思い出深い体験の提供と、将来にわたる農産物への興味醸成」という成果を得られた。

・地域内外へのアプローチとして、市内飲食店での「里芋」と「茶」を使った期間限定コラボメニューを提供して大変好評を博したほか、「上田城紅葉まつり」「茅ヶ崎フェスティバル」といった市外イベントへの出展を行った。また、所沢シティマラソン大会において、入賞者へ地場産野菜の詰め合わせを贈呈し、所沢ブランドのPRを図った。

・世界農業遺産である「武蔵野の落ち葉堆肥農法」の周知に向けては、恒例の落ち葉掃き体験イベントの実施や、同農法で生産された農産物の販売会を試行し、伝統農法の継続推進だけでなく、認知度向上や地域への来訪促進という可能性を得ることができた。

・今後も、地域ならではの特色ある農産物や文化をさらに生かし、魅力的なイベントやパッケージの作成・活用を進めると同時に、多様な広報ツールを駆使しながら、様々なステークホルダーを巻き込んだ普及啓発活動で、「地産地消の推進」と「ブランド化」の両面から、所沢産農産物のさらなる消費拡大を図る。

・地産地消の意識醸成にもつながる体験農場は、利用者の入れ替え時期に合わせ、かねてから要望の多かった利用期間を2年から3年へと延長し、一部の区画を細分化するレイアウト変更を実施した。この結果、利用期間が延びたことで栽培可能な作物の種類が拡大し、利用者がより多様な農業体験を楽しめるようになり、区画数の増加でより多くの方々へ利用の機会を提供することが可能となった。今後も、状況を細やかに把握し、さらに多くの方に利用していただけるよう努めていく。

● 観光客誘致・受入体制の強化

・インバウンド戦略推進事業では、埼玉県物産観光協会の「埼玉県インバウンド有力コンテンツ」事業を活用したFAMツアーの招聘や、市内事業者との事業連携・情報交換を目的とした「所沢市観光事業者意見交換会」を実施するなど、訪日外国人の受入体制整備を進めることができた。

今後は、東京都庁の「全国観光PRコーナー」への出展やITF（台湾国際旅行博）への参加などを通じて外国人観光客の誘致を行うほか、地域観光魅力向上事業として、事業者コンテンツの発掘、ツアーの造成・販売、情報発信を委託し、受入体制のさらなる整備を進める。

・所沢市観光大使の協力の元、多数事業を実施し効果的な観光客誘致プロモーションの推進を図った。（辰巳雄大氏を起用した観光PRポスターの作成、「北勝富士関 感謝を伝える会」の開催、広報5月号特集記事への坂巻有紗氏の起用、所沢市民感謝デーへの坂巻有紗氏の出演）

令和8年度も大山親方化粧まわし寄贈式等、観光大使にご協力いただき、事業を実施するとともに、所沢市の魅力を発信するための観光案内を作成し、効果的な観光客誘致プロモーションを推進する。

● 個性あふれる文化の創造

- ・市内外の音楽好きに訴求する「武蔵野MUSIC JAM」の開催支援を行い、ファミリー層からコアな音楽ファンまで、幅広い層の方楽しんでいただくことができた。
- ・まちなかで、ふとしたときに音楽を楽しむことができる「まちなかコンサート」をメインに、親子などで気軽にクラシック音楽に触れる機会を創出する「音まちファミリーコンサート」、小中学生のロック体験を後押しする「音まち青春ROCK」など、音楽的な嗜好や年代に関わらず、誰もが音楽を楽しめる環境づくりを行った。今後も「音楽のあるまちづくり」関連事業をはじめ、アートに関する事業なども含めて、市民が多様な文化芸術に触れる機会を創出し、文化の薫り高い施策を進めていく。
- ・市民文化センターミューズは、メンバーズ会員及び自主事業チケット収入が過去最高を更新するなど、芸術文化の振興に寄与した。本施設は開館から30年余りが経過し、老朽化が課題となっていることから、引き続き文化の殿堂としての機能を果たせるよう、利用者の安全や施設の安定的な運営に向けて適切な維持管理を進めていく。

● 文化財の調査・保存・活用

- ・歴史的建造物整備活用事業では、国登録有形文化財「秋田家住宅」及び敷地全体の整備を進めるために業務委託による「秋田家住宅」の基本設計を実施した。
- ・滝の城跡整備事業では、埼玉県史跡指定100周年記念「滝の城跡」発掘調査報告・講演会を開催し、これまで行った発掘調査の成果を報告し、滝の城跡の歴史的価値を知る機会とした。
- ・文化財公開活用事業では、国重要文化財「小野家住宅」や国登録有形文化財「秋田家住宅」などの公開により、市民が文化財に親しむ機会を設けるとともに、広報紙発行を通じて文化財調査成果の情報発信を進めた。
- ・今後については、先人たちの営みとともに長い年月受け継がれてきた歴史的財産である文化財や市域に伝わる民俗芸能の保存に努めるとともに、歴史的建造物など文化財を活用することにより、その魅力を発信することで歴史文化や郷土を大切にする心を育み、本市の歴史文化を未来へ継承していく。

● 生物多様性への理解と参加の推進

- ・生きものとみどり啓発事業では、令和7年11月に狭山丘陵の樹林地内を巡る「みどりのふれあいウォーク」を実施した。市内外から1,369人の参加があり、みどりに対する興味関心を深めながら、本市の魅力である豊かなみどりを広く周知することができた。今後もみどりへの理解と意識の向上を図るとともに、イベント内容の工夫や周知方法を拡充させることで参加者数の増加を図り、豊かなみどりの魅力を広く周知していく。

● みどりと水の保全

- ・みどりの基本計画推進事業では、みどりの審議会を2回開催し、専門的知識や知見を有する審議会委員から貴重な意見をいただきながら、みどりの基本計画及び生物多様性戦略に基づく施策や事業の進捗管理を行った。今後もみどりの審議会を開催し、計画等に基づいてみどりの保全・創出等を推進することで、本市の貴重なみどりの魅力の更なる向上を図っていく。
- ・里山保全地域等指定整備事業では、都市近郊に残された数少ない里山の原風景を保全するため、地域制緑地の指定範囲を0.33ha拡大し、市内に残された貴重なみどりを保全することができた。今後も未来のこどもたちに所沢の貴重なみどりを継承するため、各種法令等に基づき、保全する樹林地の土地利用を制限する地域制緑地の指定及び拡大を行い、貴重なみどりを保全することで所沢ブランドを高めていく。
- ・水田景観保全事業では、上山口堀口天満天神社周辺里山保全地域内に残されている貴重な水田景観を保全するため、水田6筆について地権者と貸借契約を結び、地域団体との協働により耕作及び管理を実施した。今後も地域団体との協働で水田の耕作等を行うことで、良好な都市環境の維持と多様な生物の生息・生育空間の確保を図るとともに豊かな里山の景観を保全していく。

● 所沢駅周辺のにぎわいのあるまちづくりの推進

- ・所沢駅西口土地区画整理事業における保留地処分が全て完了したことから、令和8年度末をもって所沢駅西口土地区画整理特別会計を廃止する。
- ・所沢駅周辺のにぎわいの創出を図るため、歩行者が安心・安全に通行できる道路の整備や電線地中化を進めた。今後も道路整備や電線地中化を進め、所沢駅西口エミテラス所沢に集まる来街者を周辺地区へ回遊するよう促進する。
- ・所沢駅東西市街地の一体化や駅周辺の交通渋滞の緩和を目的とした「所沢駅ふれあい通り線」について、西武鉄道株式会社により鉄道敷地内の協定工事が行われた。早期開通を目指し整備を進める。
- ・東町の再開発事業で生み出されたファルマン通り交差点歩道空間について、引き続き中心市街地のにぎわいや魅力向上のため、社会実験やイベント等の会場として貸出しを予定していることから、適正に維持管理を実施する。

● 地域の総合力の向上

- ・ところざわサクラタウンで開催された武蔵野回廊文化祭と「所沢Mix カルチャーフェスタ」を併催し、三ヶ島菫子ゆかりの地である所沢を短歌でひも解くイベントとして開催し、所沢の文化や短歌の魅力を発信することができた。COOL JAPAN FOREST構想は令和7年度で「成果創出期」から「未来への飛翔期」へと移行していく時期であることから、更に市と（株）KADOKAWAとの連携を図っていく必要がある。また、地域の町内会や商店街、西武鉄道などの鉄道事業者をはじめとする市民や民間企業、団体との連携を更に深め、このエリアの活性化を進めていく必要がある。
- ・ダイアプラン推進事業においては、環境部会においては、脱炭素経営に悩むダイアプラン圏域を中心とした事業者とソリューションを持つ企業との交流を図る脱炭素経営ネットワーク交流会を開催し、延べ55団体以上、約120名が参加し企業間のネットワークの構築を図ることができた。また、観光部会においては、西武園ゆうえんち市民感謝デーをはじめとする様々なイベントにおいて、5市共同で圏域の観光PRを行った。その他の部会においても、施設の共同利用など、圏域の魅力向上につながる取組を行った。共通の行政課題について広域的な視点で解決策を検討することで、本市の魅力の向上につながっていくと考えられることから、今後もダイアプラン5市の連携を深めていく必要がある。
- ・eスポーツ啓発推進事業として、企業版ふるさと納税による寄附金を活用し、ところざわサクラタウン内のFAV ZONEにおいて、小中学生を対象としたグループ学習会や、エミテラス所沢のTOKOROZAWA e-CUBEにおいて、高校生を対象としたスポーツマンシップを学ぶイベントを開催し、eスポーツのもつ可能性について認識することができた。今後も地方創生、青少年の健全育成、デジタル人材育成、障害者の社会参加等の様々な分野において活用を検討していく。
- ・所沢市の魅力を広くPRするため、「所沢市PR動画」を作成し、ケーブルテレビやSNS等を通じて発信した。

【総評】

令和7年度においても、まちの活性化を目指し、「所沢の魅力を高めるまちづくり」のため様々な取り組みが実施された。

「ところざわまつり」や「市民フェスティバル」、「所沢シティマラソン大会」など長く市民に親しまれているイベントの開催に加え、「埼玉西武ライオンズ」、「さいたまブロンコス」との連携、本市の特産品である狭山茶をPRするための「2025 大阪・関西万博」出展など、所沢の魅力発信に一定の効果があったと考える。さらに令和7年度は、「航空発祥の地・所沢」のPRに向け「航空発祥祭」の初開催に向けた準備にも取り組んだところである。

また、「音楽のあるまちづくり」の推進や「武蔵野MUSIC JAM」の開催支援、「所沢市文化財保存活用地域計画」の準備など文化芸術や歴史的文化財を活用した取り組み、里山保全地域の指定拡大、所沢駅周辺のにぎわいの創出、(株)KADOKAWAとの連携など、豊かなみどりと文化の魅力を伝える「所沢ブランド」の魅力を一層楽しめる多様な取り組みが着実に進められ、訪れて楽しい空間づくりにより市内の魅力ある観光拠点、商店街などへの回遊性の質を高めることができた。

こうしたことから、「所沢の魅力を高めるまちづくり」の実現に向け、各事業の順調な進捗に加え、新たな取り組みもなされたことを評価するものである。また、今後は、令和8年度から実施するシティプロモーション推進事業の実施により、全庁的なプロモーション意識の向上を図るとともに、市民が市の魅力を発信・拡散していく仕組みを設けるなど、更なる取り組みを進めていく。

【SDG s への貢献】

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と技術革新の基盤を作ろう

- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任 つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナーシップで目標を達成しよう